

「特別の教科 道徳」における授業の質の向上と

働き方改革を意識した授業改善の一考察

－「ローテーション道徳」と「デザインシート」に視点を当てて－

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 中山裕之

1. はじめに

平成 29 年度には小学校、平成 30 年度には中学校において、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳（以下道徳科）」として教科化され、5 年程が経過した。これまで、多くの学校が校内研等において道徳科について研究し、「考え、議論する道徳」や「道徳科の評価」について実践されてきた。

しかし、昨年度実施した道徳科についての教師への意識調査（中山 2022）からもわかるように、教科化後も、道徳科の授業づくりや評価について難しさを感じながら授業を行っている教師が多いことも明らかになった。

また、学校現場全体を見渡してみると、近年、働き方改革、多忙化改善について意識的に取り組むようになってきてはいるが、「〇〇教育」といった様々な教育活動をはじめ、膨大な業務量に追われているのが実情である。また、小学校においては、学級担任制が基本であり、学級担任が多くの教科を担当しなければならず、「教師は授業で勝負」とよく言われるが、授業準備の時間の確保も課題となっている。

さらに、教師の大量退職、大量採用時代があると数年続くとみられ、山梨県における令和 5 年度採用の小学校教員採用試験の競争倍率も 1.7 倍と 2 倍を切る状況が続いている。若手の教師が増えることにより、教育の質をどのように担保していくのかも大きな課題となっている。

以上のように、学校現場においては多くの課題が山積しているが、教師のワーク・ライフバランスを整えることが、児童生徒にとっても効果的な教育活動を行うことができると考えている。

非認知能力の重要性が注目される中で、道徳科の学習は予測困難なこれからの時代を生きる子どもたちにとって、とても大切なものだと考えている。

そのために、ローテーション道徳の導入および道徳授業デザインシートの活用により、道徳科における効果的な教材研究や授業づくりの在り方を研究し、授業の質の向上や多面的な児童理解、教師の負担軽減等について考えることを通して、働き方改革を意識した授業改善の一助になることを目指して、本主題を設定した。

2. 研究の目的と方法

（1）研究の目的

学年間ローテーション道徳や道徳授業デザインシートを活用し、授業の質の向上や多面的な児童理解、若手教師の育成等のメリットを意識した道徳科の授業改善に向けた取り組みを行うことで、授業の質の向上や働き方改革につなげることを目的とする。

（2）研究の方法

①学年間でのローテーション道徳の実施

学年間でローテーション道徳を行うことで、教材研究の数を減らし、同じ教材を使用した授業を複数クラスで行うことの有効性や課題について明らかにする。

②道徳授業デザインシートを活用した授業づくり

昨年度の研究で開発した道徳授業デザインシート（中山 2022）を改善し、道徳科の授業づくりを短い時間で効果的に行うための方法について考えていく。

昨年度より開始された GIGA スクール構想

における ICT を活用した道徳科の授業改善の方法について、授業実践をもとに研究していく。

また、①②について以下の表1～表3の内容を踏まえて研究を行った。

表1 意識するメリット

・道徳科の授業の確実な実施
・教材研究を行う教材数の減少による時間の確保
・同一教材による授業を複数行うことによる授業力の向上
・若手教師の育成
・複数の教師による多面的な児童理解

表2 学校における実施体制

学年	学級数	実施方法
1年生	3学級	2学期より部分的に実施（発達段階を考慮）
2年生	2学級	1学期よりほぼローテーションでの実施
3年生	2学級	2学期より実施（初任研とのかかわり）
4年生	2学級	1学期よりローテーションで実施（所属学年）
5年生	2学級	1学期よりほぼローテーションでの実施
6年生	2学級	1学期より部分的に実施

表3 学年における実施体制

・同学年，同一時間でのローテーション道徳の実施
・2週間を見越した道徳授業の構想，授業展開についての相談
・1回目…担任するクラス，2回目…となりのクラス
・授業があった日の放課後に短い時間での振り返り，共有の時間の確保
・発達段階や教員配置など学年の実態を踏まえた実施方法での実施（ほぼローテーション道徳で行うか，部分的に行うか）

3. 研究の結果と考察

(1) ローテーション道徳についてのアンケート調査から

- ・調査対象：山梨県内公立 A 小学校教師 (12名)
- ・調査時期：2022年12月
- ・調査方法：google forms によるインターネット調査
- ・調査内容

表4に示す調査項目については、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「思わない」4つの中から一つだけあてはまるものを

選んで回答してもらった。加えて、それぞれの調査項目についての理由を自由記述で回答してもらった。

表4 調査内容とその結果

1	教職経験年数	・5年未満 [50%]・5～10年 [0%] ・10年～20年 [17%]・20年以上 [33%]
	ローテーション道徳は、道徳科の授業の確実な実施につながりましたか	・そう思う [83%]・ややそう思う [17%] ・あまりそう思わない [0%]・思わない [0%] <主な回答の理由> ・担任以外のクラスでも授業をするので、予定をきちんと組むことが必要になり、優先順位が上が り、確実な実施につながっているから ・主任（となり）のクラスでもしっかり授業を考えなければと思えるから ・一つの教材に対して時間をかけて研究できるため、よりよい授業が行えたから ・2週に1回の教材研究になり、実施がしやすかったから
3	ローテーション道徳は、教材研究を行う教材数の減少による他の校務を行う時間の確保につながりましたか	・そう思う [75%]・ややそう思う [25%] ・あまりそう思わない [0%]・思わない [0%] <主な回答の理由> ・教材数の減少は、他の校務に仕事を振り分けられるので良かった ・以前までは毎週考えていて、少し負担に感じるときもあったが、ローテーション道徳になり、時間的な負担が大きく減った ・約半分の授業研究になるので、時間も半分になり、その分時間確保につながっていると思う ・授業の質を揃えるという点では、そこまで学年間で指導しあっている時間の確保は難しかった
	ローテーション道徳は、道徳教材による授業を複数回行うことにより、授業力の向上につながりましたか	・そう思う [83%]・ややそう思う [17%] ・あまりそう思わない [0%]・思わない [0%]

	<p><主な回答の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ授業の流れでも同じ教材でもクラスによって反応が違い、大変勉強になった ・一度授業を行った後に、児童の反応を見て、発問や展開など、改善することができ、よりよい授業をすることができた ・山梨県の小学校では、専科も少なく、教員・学校によっては学年間の交換授業を実施せず、他県や中学校のように複数回授業をする経験が少ない教員もいるので、本校のような若い先生方いる場合は、効果的であったと思う 		<p>での相談の時間の確保等、負担感はありましたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう思う [17%]・ややそう思う [0%] ・あまりそう思わない [50%]・思わない [33%] ・学期に1～2回、単元を決めるだけで、あとは自分の教材研究の時間に使えたので、負担感はありません感じなかった ・2週に1度、略案をみて頂き、アドバイスしてもらえる時間を確保することが負担感なく出来ていた ・どの教材を担当するか、いつ授業をするかの調整が必要な時があった ・児童の実態や教師の授業力によっては、かなりの時間確保が必要だと感じる
<p>5 ローテーション道徳は、若手教師の育成（教師としての力量アップ）につながりましたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そう思う [50%]・ややそう思う [42%] ・あまりそう思わない [8%]・思わない [0%] ・担任している学級では、児童の反応も予測できる場所もあるが、他の学級では、児童の様子も分からないこともあるため臨機応変に対応する力がついた ・一つの教材を複数回も研究することでより、深く考えることができた ・クロームブックを使っの授業など逆に若手から学ぶこともあった ・同じ時間に両クラスで授業をするため、主任の授業を参観して学ぶことができなかったから 	<p>8 ローテーション道徳において、評価を行うにあたり、難しさがありましたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう思う [17%]・ややそう思う [25%] ・あまりそう思わない [33%]・思わない [25%] ・授業のポイントを教員同士で共通理解すること、児童へノートへの書き方がある程度統一すれば、評価の難しさはないのかと思う ・担当した授業について、学年オープンで評価をしたため、授業の様子や授業感想等、児童の学習状況をしっかりと踏まえて評価をすることができた ・授業をしていないところの評価については、ワークシートの記述を確認しただけでは見取ることが難しい ・教員同士でコミュニケーションを取ったり、他の先生に評価してもらったりと、時間をとって共通理解を図る必要があると思う 	
<p>6 ローテーション道徳において、他のクラスで授業を行うことにより、複数の教師による多面的な児童理解につながりましたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そう思う [100%]・ややそう思う [0%] ・あまりそう思わない [0%]・思わない [0%] ・学級王国になりがちな小学校においては、多くの教師の目で児童を見取っていくことは、大切であると思う ・内容項目ごとに児童の様々な考え方を引き出し、それを共有することができるので、児童の知らなかった一面を知るきっかけにもなったから ・道徳以外も交換授業にしている、週4時間、学年間交換授業を行っている。学年間で児童の様子を話す時間も増え、多面的な児童理解につながっていると感じる 	<p>【自由記述から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行ってみると、効率的でもあるので、メリットもあり良かったと感じた ・成果として、他の先生からの指導による気づき、他クラスの児童理解、教材研究を行う教材数の減少などがあると思う ・課題として、評価の仕方が難しいところもあると思う。まだ数回しかやっていないが、ローテーション道徳をやることにより、教師も児童も良い面がたくさんあると思う。今後もローテーション道徳をしていきたいと思う 	
<p>7 ローテーション道徳を運用するにあたり、学年間</p>			

- ・ローテーション道徳は、働き方改革に関わってのよさがあり、また学年間で児童の様子を多面的に見ることができるよさがある
- ・他教科に比べて、交換授業のハードルも低いと思うので、ローテーション道徳がどんどん広まっていけばよいと思う
- ・圧倒的に教材研究の手間や負担が減ったので、これからも続けたい
- ・とてもよかった
- ・今年度初めてローテーション道徳を実施し、感じたことは教材研究の負担が軽減したことである。昨年度は、初任研があり、毎週指導案を出していたため、少し負担に感じていた。しかし、ローテーション道徳を実施したことで、2週に1度の教材研究になり、さらには次の週には反省点を改善できたため、児童にとっても内容のある授業を展開することができたことが良かった
- ・ローテーション道徳を取り入れる前は、なんだか難しそうで、煩雑になりそう…というイメージで敬遠していたのだが、いざやってみると、とても負担減で教材を深められるイメージがたった。これを、3クラス・4クラス…と増えていくと、さらに負担減になると思う
- ・4年前、3、4年生でも行っていたが、他のクラスの児童理解にもつながり、担任以外が道徳の授業を行うことには、抵抗がなくなり、メリットが多いと感じている。交換する相手にもよるが、項目が偏らないようにいろいろな項目ができるように分担している
- ・業務改善の観点では、負担が軽くなったと感じる。一方で、主任の授業を参観する機会がなくなることがあったので、残念に思う点もあった
- ・教材研究に取り組むことに集中できることが最大の成果だと思う

(2) 調査結果からわかる成果と課題

①成果として

表1に挙げた、5つのメリットをもとに、成果について考えていきたい。

「道徳科の授業の確実な実施」について、100%が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的な回答であった。

ローテーション道徳を学年体制で取り組む

ことで予定を計画的に組むことや、教材研究を行う教材数の減少による負担感の軽減により、道徳科の授業の量的確保につながったと考えられる。

「教材研究を行う教材数の減少による時間の確保」についても、100%が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的な回答であった。

1時間で完結する道徳科の授業の特性上、他の教科に比べて教材研究に費やす時間が多い傾向にあるが、ローテーション道徳による教材研究を行う教材数の減少は、他の校務に充てる時間の確保だけではなく、負担感の軽減にもつながったと考えられる。

「同一教材による授業を複数回行うことによる授業力の向上」についても、100%が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的な回答であった。

同じ授業展開によっても児童の反応が違い、臨機応変に対応することや、1回目を行った授業の課題点を修正して、2回目に他のクラスで行うことがよりよい授業づくりにつながり、授業力の向上を実感することにもつながったのではないかと考えられる。

「若手教師の育成」については、93%が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的な回答であったが、8%が「あまりそう思わない」と回答した。

ローテーション道徳を行うことで、必然的に学年間で相談する時間が増え、ベテラン教師が若手教師にアドバイスをを行う機会を生み出すことにつながったと考えられる。一方で、同一時間に行ったことでお互いの授業を参観できないという時間割の運用面での課題も挙げられた。

「複数の教師による多面的な児童理解」については、100%が「そう思う」と回答した。

学年間で交換授業を行うことで、児童の実態について実感を伴っての児童理解につなげることができるのではないかと考えられる。また、児童理解は道徳科以外での交換授業でも、可能だが、道徳科の授業の特性上、授業の様子だけではなく、考え方などをもとにして多面的な児童理解につなげることができるのではないかと

と考えられる。

②課題として

評価の難しさについては、「そう思う」「ややそう思う」と答えた割合を合わせると42%となり、半数近くが評価について難しさを感じていることが明らかになった。「認め、励ます個人内評価」を行うにあたり、何をどのように評価すればよいのか、学年間で共通理解を図る時間の確保や評価のポイントなどに課題を感じている教師が多く、ローテーション道徳に関わらず、道徳科の評価自体の難しさが課題につながっているのではないかと考えられる。

さらに、学年間での相談の時間の確保をすることや、学年間で若手とベテランの授業の質のある程度揃えるためのアドバイスの時間の確保、授業を見合う時間の確保といった時間割の運用面での課題も明らかとなった。

(3) 昨年度開発した道徳授業デザインシートの改善

道徳科の授業において島(2020)は、道徳科の授業における発問について以下のように整理している。

表5 発問の3つのレベル

a.状況理解レベルの発問	
教材から	だれが出てきた 何があった
b.心情読解レベルの発問	
登場人物の考えたことや感じたこと	主人公は何を考えた どんな気持ちだった
c.道徳的価値レベルの発問	
道徳的価値についての考え方や生き方、信念	その思いを支えている考え方や、感じ方、生き方

昨年度、道徳授業デザインシートを開発(中山2022)するにあたり、道徳科の教科化以前の課題であった状況理解や心情理解に偏った授業から脱却し、すぐに答えられない、答えが出ない発問や多様な考えを表出させるような発問といったような道徳的価値レベルの発問を中心発問として設定する授業への転換について考えてきた。

今年度は、昨年度開発したものに以下の3点

の項目を追加し、改善を行った。

表6 今年度追加した項目

・「考え、議論する」ための授業のひと工夫
・ICTの活用
・教師の振り返りの項目

そして、図1、図2のように改善点を加えた道徳授業デザインシートを作成した。

図1 道徳授業デザインシート(左側)

「考え、議論する」ための授業のひと工夫については、ICTの活用、意見表明、交流の方法、思考ツールの活用等について記入できるようにした。

中心発問について深く考えるためには具体的な手立てを考える必要があり、ICTの活用や意見交流の方法など、手立てを明確にしておくことが大切である。また、中心発問を生かすためには、導入や、状況理解レベルの発問や心情読解レベルの発問など、その他の学習活動においても、意図を明確にしておくことが大切である。

そうすることにより、「考え、議論する」道徳を行うための、児童生徒の目線に立った授業づくりにもつながるのではないかと考えた。

困ったときの道徳授業 発問例・活動例
発問3つのレベル（発問についての基本的な考え方）

①道徳的価値の発問	②道徳的価値の発問	③道徳的価値の発問
何が正しいか？何が悪いのか？ 問題の背景、状況、道徳的価値 ○〇について知っているか？ ○〇についてどう思うか？ ○〇の経験はあるか？ ○〇についてイメージできるか？ ○〇の理由は何ですか？ ○〇をどう感じましたか？ ○〇をどう感じましたか？	何と何を比べたか？ 価値的価値の発問 ○〇はどんな価値ですか？ ○〇はどんな価値ですか？ ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて	何の思いや考え、価値、美しさ、面白さ？ ③ 道徳的価値の発問 本音の（道徳的価値）はなんですか？ （道徳的価値）は本音に異なるのか？ ○〇の考え、美しさ、面白さなどについて ○〇の理由は何ですか？ ○〇をどう感じましたか？ ○〇をどう感じましたか？ ○〇をどう感じましたか？
○ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		○ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて
④ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑤ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑥ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑦ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑧ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑨ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑩ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑪ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑫ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑬ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑭ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑮ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑯ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑰ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑱ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑲ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
⑳ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉑ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉒ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉓ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉔ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉕ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉖ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉗ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉘ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉙ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉚ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉛ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉜ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉝ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉞ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㉟ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊱ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊲ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊳ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊴ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊵ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊶ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊷ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊸ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊹ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊺ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊻ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊼ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊽ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊾ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		
㊿ 道徳的価値の発問 ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて ○〇の価値、美しさ、面白さなどについて		

図2 道徳授業デザインシート（右側）

「ICTの活用」については、導入、展開、終末、その他についての活用例を示し、どのような場面でどのように活用するかを整理した。

「教師の振り返り」については、2回目に向けた修正点や今後に向けた改善点など、指導と評価の一体化という面からも振り返りの項目は重要であると考えたため追加した。

(4) 道徳授業デザインシートの有用性と課題
若手教師へのインタビュー調査から

若手教師3名に、道徳授業デザインシートをローテーション道徳と合わせて活用してもらい、その後インタビュー調査を行った。

・調査対象 3名

A：1年生担任（採用2年目）

B：2年生担任（採用4年目）

※昨年度から継続して活用

C：4年生担任（採用2年目）

・調査内容

1. シート作成にかかった時間
2. 使いやすかった点
3. 使いにくかった点
4. もっとこうしたらよいと思う点
5. 授業力の向上につながったか
6. 他の校務に充てる時間の確保につながったか
7. ローテーション道徳に関わって担任していない学級で道徳科の授業を行うことについて感じたこと
8. 児童の学びの様子
9. 授業デザインシートを使ってローテーション道徳を行ってみたいの道徳科の授業に対するハードルの高さの変化（10段階：最高10、最低1）

表7 インタビュー調査の結果

	A 1年生担任 採用2年目	B 2年生担任 採用4年目 (昨年度から継続して活用)	C 4年生担任 採用2年目
かかった時間	・1回目 30分程度 ・2回目以降 20分程度	・15分程度	・年度当初 30～40分 ・12月頃 20～30分
負担感	・時間を無駄にしなかった ・他の業務には特に影響はなかった	・負担感を感じない。 ・ノートを使って教材研究をしていたが、時短になった。楽になった	・負担感はない ・考えるのが楽しかった
使いやすかった点	・物語など、文章教材の時には使いやすい	・シートを活用して2年目で、教材研究のベースとなっている ・学習指導要領を意識できる	・授業の流れがわかりやすい ・発問で悩むことが少なくなった ・ICTを意識して活用できるようになり、児童の考えが可視化できるようになった。

			・右側と左側がリンクしてよい
使いにく かった点	・写真やイラスト中心の教材の時に は発問のレベルが当てはまらない ものがあり、少し戸惑った	・シートを活用して2年目で慣れて きたので特に感じない	・リストの中から使わなければと思 ってしまう ・言葉がうまく合わないときにどの ようにアレンジして言い換えるの かが難しい ・「よさ」を問う発問が難しい
もっとこ うしたら よいと思 う点	・特になし	・児童のノートやワークシートの項 目があってもよい ・発問が、発達段階に分かれている と使いやすいのではないかと	・リストの言葉の言い換え方がわか りやすいとよい
ローテー ション道 徳に関わ って担任 していな い学級で 道徳科の 授業を行 うことに ついて感 じたこと	・他のクラスで授業を行うことで、 想定していないことに対しても柔 軟に対応できる力が身についた ・他のクラスの児童とかかわる機会 が増え、児童理解につながった ・評価について、自分のクラスが3 回に1回なので難しさを感じる	・授業後に学年間で話をするこ とで、児童の違った面を知ることが でき、児童理解が深まるなど、メ リットを強く感じる ・評価について、自分が行った授業 を中心に評価したため、隣のクラ スの先生が行った授業が反映され にくい	・他のクラスの児童とのかかわりが 増え、学習以外の面など、児童の 多面的理解につながった ・評価について、自分が担当してい ない授業のことはわからず、学年 間での情報交換が必要
児童の学 びの様子	・発問がわかりやすかったので、発 言が多くなった ・中心発問で多様な考えが出るよう になった	・発問が変わると児童の反応が変わ ることが実感できた ・2回目に向けて修正したが、1回 目の方が児童の反応が良かったこ ともあった	・学習感想からわかるように、シー トの発問によって、内容項目につ いて自分事としてしっかり考えら れるようになってきた
道徳科の 授業に対 するハー ドルの高 さの変化 (1-10)	9→5 ・以前は道徳に難しさを感じてい て、どうやったらよいのかわから なかった ・答えを誘導したり、自分でまとめ てしまったりすることがなくなっ た	6→3 ・短いけど内容が濃い、時には時間 をかけて授業をつくってみるのも よい ・初任者の頃は教材研究ノートを使 っていたが、今は、シートを使っ ての教材研究が軸となっている	9→3 ・今までは何を問えばよいのかわか らなかったが、わかるようになった ・2週間に1つの教材、少しの修正 で2時間目を行うという流れがで きた

(5) 調査結果からわかる成果と課題

①成果として

インタビュー調査から、大きな成果としてあげられることは、「短時間で内容の濃い教材研究ができた」「授業力の向上が実感できた」

「児童の学びの様子が変わった」「道徳科の授業づくりに対するハードルが下がった」の4点である。

「短時間で内容の濃い教材研究ができた」ことについては、教材研究は時間をかければ

かけただけ授業の深まりを生むことにつながるが、膨大な業務量で多忙を極める学校現場においては、授業づくりかけられる時間が限られている。そこで、道徳授業デザインシートを活用することで、短時間でも質の高い授業づくりにつなげることができる。

「授業力の向上が実感できた」ことについては、道徳的価値レベルの発問を中心発問として意識することで、何を考え、問えばよいのか道徳の授業づくりについての理解が深まったことや、ICTの活用やローテーション道徳における1回目の課題を2回目に向けて修正点を追記し、授業を行うことで複数回実施した授業を比較して振り返ることができるからであると考えられる。

「児童の学びの様子が変わった」ことについては、発言の増加につながったり、中心発問で多様な考えが出るようになったりした。また、学習感想においては、教材の内容にとどまらず、内容項目について自分事としての記述が多くみられるようになった。これは、発問のレベルを意識したことで発問の意図が明確になり、道徳的価値について深く考えられるようになったからであると考えられる。

「道徳科の授業づくりに対するハードルが下がった」ことについては、道徳の授業づくりに難しさを感じている中で、毎週教材研究を行うことに負担感を感じていたという実態があった。しかし、道徳授業デザインシートを活用することで、道徳科の授業づくりにかける時間の短縮や、難しさの緩和につながったり、授業力の向上や児童の学びの様子の変化などを実感したりすることによって、苦手意識の改善や負担感の軽減につながったのではないかと考えられる。

②課題として

課題としてあげられることは、文章教材などは、発問の3つのレベルについて考えやすいが、写真や活動が中心となった教材には当てはめにくい部分があるということである。

また、例示された中心発問をねらいに合う

ように言い換えることにも難しい部分があることがわかった。改善のためには、実践をもとに、さらに使いやすいように加除修正し、アップデートし続けていくことが必要であると考えられる。

道徳授業デザインシートは万能ではないので、中心発問を核にして授業構成するというのを念頭に置き、道徳授業デザインシートを繰り返し活用し、実践を積み重ねることで、軽重をつけたり、アレンジできたり、カスタマイズできたりするようになるのではないかと考えている。特に、道徳科の授業づくりに難しさを感じている教師や、若手の教師には有効ではないかと考える。

4. おわりに 今後に向けて

働き方改革の目的は、教師のワーク・ライフバランスを改善することや、児童生徒と向き合う時間を生み出したり、授業を充実させたりするためである。「教師は授業で勝負」とよく言われるように、充実した授業を行うことは、児童生徒の成長はもちろんのこと、学級経営の充実や教師の力量アップにも大きくつながるものである。

今後、本研究の成果をもとに、ローテーション道徳や、道徳授業デザインシートの有効性を広く普及していくことで、充実した教育活動のための一助としていきたい。

引用・参考文献等

- ・文部科学省「学習指導要領解説 特別の教科道徳」(2017)
- ・中山裕之『特別の教科 道徳』における授業デザインシートの開発～教師と学生の課題意識から、これからの道徳科の授業づくりを考える～(2022) 山梨大学教職大学院 令和3年度教育実践研究報告書
- ・島恒生 小学校・中学校 納得と発見のある道徳科「深い学び」をつくる内容項目のポイント(2020) 日本文教出版
- ・諸富祥彦 土田雄一「考えるツール&議論するツールでつくる小学校道徳の新授業プラン」(2020) 明治図書
- ・『道徳教育』編集部「考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集」(2019) 明治図書